

## (860) 溶融金属の表面波動に及ぼす直流磁束勾配の効果

名古屋大学大学院

○小塚敏之

名古屋大学工学部

浅井滋生

1. 緒言 近年、溶湯から直接薄板を作る急速凝固プロセスが注目を集めている。そこでは、初期凝固現象に大きな影響を持つ溶湯の安定供給と溶鋼プールの表面波動の抑制が重要な課題となっている。一方、溶融金属は電気伝導性流体であり、磁場の印加によって融体の運動を抑制することが可能である。本研究では、融体中に誘導される電流分布を考慮した解析を行い、波動抑制に及ぼす磁束勾配の効果を明らかにする。また、実験によって、磁束勾配下での表面波動減衰挙動を調べた。

2. 理論 磁束密度  $B$  による波動抑制効果を見積るには、融体中に誘導される電流密度  $J$  の分布を考慮する必要がある。電流のベクトルポテンシャル  $\psi$  ( $J \equiv \nabla \times \psi \cdots (1)$ ) を導入し、Maxwell と  $0h_m$  の式に基づいてその基礎式を導くと (2) 式を得る。 $\nabla^2 \psi = \sigma \partial B / \partial t - \sigma \nabla \times (V \times B) \cdots (2)$  解析の対象とする座標系を Fig. 1 に示す。本系では、 $B = (B_x, 0, 0)$ ,  $V = (0, V, W) \cdots (3), (4)$  であり、 $B_x = k z + B_0 \cdots (5)$  として (2) 式より  $\psi$  を求める。つぎに、(1) 式から  $J$  を得て、電磁体積力が  $F = (f_x, f_y, f_z) = (0, J_z B, -J_y B) \cdots (6)$  と得られる。そこで、波動の運動方程式、 $\rho \partial V / \partial t = -\partial P / \partial y + f_y$ ,  $\rho \partial W / \partial t = -\partial P / \partial z + f_z - \rho g \cdots (7), (8)$  より連続の式、 $\partial V / \partial t + \partial W / \partial t = 0 \cdots (9)$  に (5), (6) 式を代入して解き、 $W = (dh/dt) \{ \sinh(az)/\sinh(ah_0) \} \exp(bj(z-h_0)+j(\omega t-\xi y)) \cdots (10)$  を得る。ここで、 $a = \sqrt{1-N^2}\xi$ ,  $b = N\xi$ ,  $N = \sigma k B / \rho \omega_0$  である。波高の減衰定数  $D$  が波の角周波数  $\omega$  に比べて十分小さく ( $D \ll \omega$ )、波高  $h$  の変化が  $(d^2 h / dt^2) + 2D(dh/dt) + \omega^2 h = 0 \cdots (11)$  と記述できるとすれば、(6), (10) 式を使って  $D = D_m + D_f = (\sigma B k / 2\xi^2 \rho) \{ a / \tanh(ah_0) + b j \} + D_f \cdots (12)$  を得る。ここで、 $D_m$  は磁束による減衰定数であり、 $D_f$  は容器との摩擦によるものである。 $B_x$  に勾配がない場合 ( $k=0$ ) には  $D_m=0$  となり Fig. 1 に示される系では磁場による波動抑制は得られないことになる。

3. 実験結果 先の報告<sup>1)</sup>と同じ装置を用い、水銀浴の波高をレーザー非接触距離計により  $10\mu$  の精度で測定した。減衰挙動の一例を Fig. 2 に示す。磁束を印加する場合としない場合の減衰定数から  $D_m$  を求め、(12) 式で示される理論値と比較したのが Fig. 3 である。両者の間には、

かなり良い一致がみられる。

4. 結言 磁束勾配下での波動減衰挙動を理論解析し、実験値との比較を行った。

(記号)  $B$ : 平均磁束,  $h$ : 波高,  $k$ : 磁束勾配,  $P$ : 静圧,  $t$ : 時間,  $\rho$ : 密度,  $\sigma$ : 電気伝導度,  $\xi$ : 波数

(文献) 1) 小塚敏之, 浅井滋生, 稲庭: 鉄と鋼, 72 (1986), S716

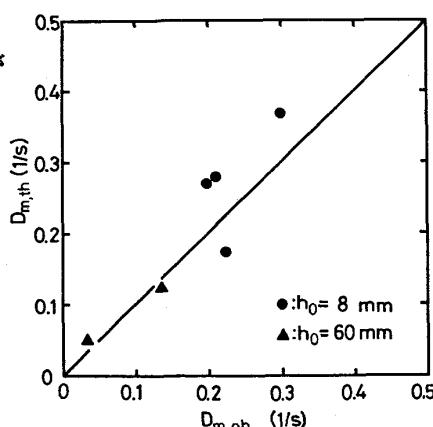


Fig. 3. Comparison of theoretical values of a damping coefficient and observed ones.

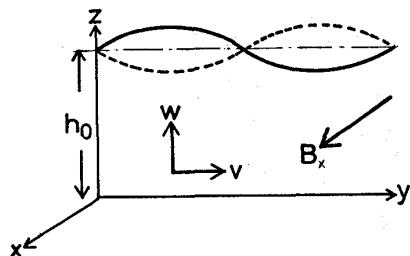


Fig. 1. Wave motion and coordinate system.

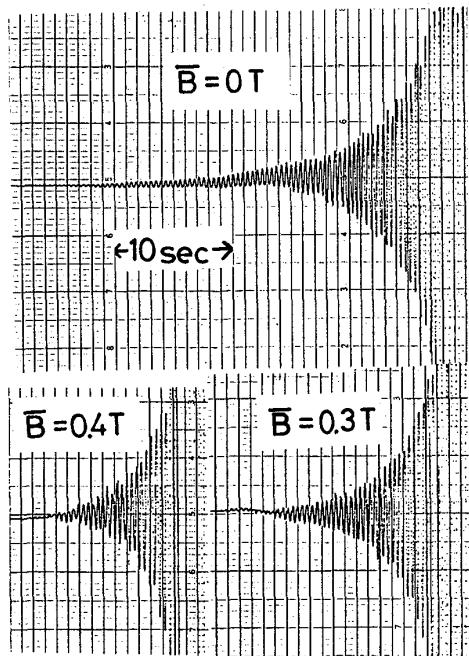


Fig. 2. Effect of magnetic flux on damping wave motion.